日常会話における「程度の甚だしさを表す副詞」の使用実態について
― 性 差 の 観 点 か ら ―

佐　野　由紀子

1．はじめに

日本語の程度を表す副詞的要素は種類が豊富である。特に程度が甚だしいことを表すものは「斬新で効果的な表現が求められ[1]」、時代による移り変わりも激しい。このため、共時的にも世代差が見られることがある。また地域による違い、文体による違い、語によっては性別による使用頻度の違いが見られることも報告されており、程度を表す副詞的要素の使用については、話し手の属性、使用場面といった社会言語学的観点からの研究も極めて重要であると考えられる。

本稿では、現代日本語研究会編（2016）『談話資料 日常生活のことば』付属の談話資料データ（以下『談話資料 日常生活のことば』とする）、および宇佐美まゆみ監修（2011）『BTSJ による日本語話し言葉コーパス（トランスクリプト・音声）2011年版』（以下『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』とする）を談話資料として使用し、日常会話における程度表現の使用実態を、特に性差という観点から考察する。

2．先行研究と問題提起

英語については古く Jespersen（1922）、Lakoff（1975）などにおいて、女性は “so” のような強調表現を頻繁に使うことが指摘されている。

⑴　He is *so* charming!

⑵　It is *so* lovely!

一方、日本語においては管見の限り、女性の方が強調表現をよく使用するといった指摘は見られない。ただし近年、「すごい」「すごく」といった特定の語について、男女の使用率に違いが見られることが指摘されている。

Mori（2011）は、大学生のスピーチデータ（男子学生11人、女子学生20人の３分間スピーチ）を基に「すごく」と「すごい」の使用数を観察した結果、「女子学生の方が男子学生より「すごい」「すごく」共に多く使用していた」と述べている[2]。

また中尾（2014）は、「すごい」「すごく」の副詞的用法について、以下の①～③それぞれの選択肢のいずれかを選択するアンケート調査を行った結果、「「面白い」を例にあげると、男子学生は「す

ⓒ高知大学人文社会科学部　人文社会科学科　国際社会コース

[1] 工藤（1982：182）。

[2] Mori（2011：46）。ただし、「すごい」については「すごいおいしい」のような副詞的用法だけでなく、通常の形容詞としての使用も含まれている。

ごく」を使い、女子学生は「すごい」あるいは「両方使用」の率が高い[3]（中尾2014:90－91）」と述べている。

① すごく面白い・すごい面白い・両方使う・どちらも使わない
② すごく勉強した・すごい勉強した・両方使う・どちらも使わない
③ すごく静かだ・すごい静かだ・両方使う・どちらも使わない

更に孫（2016）は、中尾（2014）の考察について「主に書きことばを中心とした調査に基づいたもので、実態調査も大学生による作例が使用されているため、話しことばを含む現代語の実態が明らかになっているとはいえない（孫2016:92）」とした上で、「すごい」「すごく」の副詞的用法の使用実態を、『談話資料 日常生活のことば』を用いて調査している。その結果、以下のことが明らかにされた。

・男女別に見ると、「すごい」を使った女性の用例数は全用例数の８割弱を占めていて、男性の用例数はわずか２割である。
・「すごい」以外の語形では、「すげえ」「すっげえ」「すんげえ」「すーげえ」のいずれも男性に使用されているのに対して、「すっごい」「すんっごい」などは女性により多く使用されている。
・「すごく」の用例数は「すごい」の半分以下で、日常会話では、「すごく」の程度修飾用法が「すごい」に変わりつつある。
・「すごく」についても、女性の使用が約８割で、男性が２割である。
・同じ発話者でも、発話によって「すごい」と「すごく」のどちらも使用する場合がある。
・年代別にみると、すべての年代にわたって「すごい」の程度副詞用法がみられたが、20代と30代にもっともよく使われている。年代が上がるにつれて使用が減少傾向にある。「すごく」については、最も使用率が高い多いのは30代であるが、70代の使用が20代を上回っており、必ずしも若い世代が多く使用するとは言えない。

（孫2016より）

以上のように、日常会話における「すごい」「すごく」の使用率には性差が存在し、女性語とは言えないまでも、極めて女性の使用に傾いた「傾向的性差」のある語だと言えるだろう。

しかし、孫（2016）の調査は「すごい」や「すごく」に限定されたものである。話し言葉において、程度の甚だしさを表す副詞的表現は他にどのようなものが、どの程度使用されるのだろうか。また程度の甚だしさを表す副詞的表現全般について、女性の方が多用する傾向があるのか、それとも男性は、「すごい」や「すごく」以外の程度表現を多用するのか。また男女に違いがあるとすれば、それをどのように捉えるべきなのか。以下ではこれらのことを明らかにしていきたい。

３．調　　査

１．で述べたように、本研究では特に日常会話における程度表現の性差に注目するため、資料については『談話資料 日常生活のことば』および『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』を用い

[3]「面白い」以外の語については、男女差について特に触れられていない。

る[4]。ただし『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』については、同条件による男女の比較を行うという点から「親しい同性友人同士（男女）の雑談」「初対面同性同士雑談（男女）」のデータのみを使用した。

以下に示すように、それぞれの資料における男女別の発話文数には偏りがある。孫（2016）では男女の発話総数に違いがあることを認めつつも「おおよその傾向はみることができる」としたのみであったが、本稿では男女の発話数比率を考慮した上で、比較を行うこととする。

『談話資料 日常生活のことば』
女性の発話文数[5]：15,168
男性の発話文数：11,880

『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』
女性の発話文数：5,795（「親しい同性友人同士（男女）の雑談」）＋2,868（「初対面同性同士雑談（男女）」）＝8,663
男性の発話文数：7,519（「親しい同性友人同士（男女）の雑談」）＋2,514（「初対面同性同士雑談（男女）」）＝10,033

女性総発話文数（男女比率）	男性総発話文数（男女比率）
23,831（52.1％）	21,913（47.9％）

なお、『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』は若い世代の会話が中心であり、特に今回用いた「親しい同性友人同士（男女）の雑談」は10代後半から20代中盤、「初対面同性同士雑談（男女）」は20代前半の会話である。一方、『談話資料 日常生活のことば』は10代から90代までの会話が収録されている。『談話資料 日常生活のことば』において、「すごい」は若い世代に多く使用されることが明らかにされており（孫2016）、他の副詞についても世代差が存在する可能性があるが[6]、世代差については別稿にゆずることとし、本稿では性別による違いのみに注目していきたい。

3.1 程度の甚だしさを表す副詞の使用実態

本節では、まず日常会話において、程度が甚だしいことを表す副詞的表現としてどのような表現

[4] それぞれのデータの詳細は小林（2016）および宇佐美まゆみ監修（2011）『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2011年版』「本コーパス（宇佐美2011）のデータシート」を参照されたいが、『談話資料 日常生活のことば』の協力者は31名（女性16人、男性15人）で、いわゆる共通語話者であるか、少なくとも生活圏において共通語になじみがある（ある程度使いこなしている）ことを基準に選定されている。ただし、これらの協力者との会話に参加した談話参加者には、首都圏以外の国内在住者（方言話者を含む）や外国在住者、さらに外国人も含まれている。また『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』の出身地は国名（本稿で使用する資料の話者は「日本」）のみ記されており、詳細は不明である。程度表現の使用については地域差もあると考えられるが、自然談話の資料は限られるため、今回はこれらの資料をもとに考察する。

[5] 『談話資料 日常生活のことば』では、「レコード数」とあるが、『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』の「発話文数」と同じものを指すと考えられるため、本稿では「発話文数」とする。

[6] 文化庁文化部国語課（2012）の調査からは、「すごい」「超」「全然」の使用意識について、世代差があることが分かる。

がどの程度使用されているかを明らかにする。具体的には前述の資料から２例以上採集できたものをすべてピックアップし、それぞれの語ごとの使用数を見る。程度の甚だしさを表す副詞的表現の中には、程度副詞として十分に定着しているとは言えない新しい表現や俗語的な表現もあるが、以下では程度を表す副詞的要素をすべて程度副詞と呼ぶことにする。

また程度副詞には、程度が小さいことを表すものから大きいことを表すものまで連続的に存在し、程度の甚だしさを表す副詞の選定については判断が揺れる可能性があるが、話し手が程度の高さを強調する意図があるものとして、本稿では「すごい」「すごく」「めっちゃ[7]」「超[8]」「相当」「随分[9]」「全然（否定対極用法を除く）」「とても（否定対極用法を除く）」「クソ」を採用した。

「すごい」「めっちゃ」「随分」「とても」「クソ」については、以下のようなバリエーションが存在し、以下で述べる使用数はこれらを含んだ数である[10]。

すごい：すっごい（66例）、すーごい（14例）、すんごい（11例）、すごーい（２例）、すんっごい（１例）、すげえ[11]（17例）、すっげえ（５例）、すんげえ（１例）、すーげえ（１例）、ものすごい（９例）、ものすっごい（１例）

すごく：すっごく（４例）、すーごく（２例）、すごーく（1例）、すごくー（1例）、ものすごく（９例）、ものすごーく（１例）

めっちゃ：めちゃ（８例）、めちゃめちゃ（４例）、めちゃくちゃ（４例）、めっちゃくちゃ（１例）、むっちゃ（６例）、むっちゃくちゃ（１例）、むちゃくちゃ（１例）、むちゃむちゃ（１例）

随分：随分と（１例）

とても：とっても（３例）

くそ：クッソ（１例）

この他、「かなり」「ほんと（に）」「マジ（で）」「思い切り」等の使用もあったが、これらは考察対象に含めないこととする。それぞれの語が表す本来的な意味と、程度の甚だしさを表す意味との線引きが困難なためである[12]。

なお、程度副詞の中には⑶のように量を表すことができるものもあり、本稿ではこれらも考察対象としている。

⑶　私、どよ、今週っていうか、この前の土曜から日曜にかけて ??（うん）、なか、やっと、ちょっと、ほっとして（うん）、あーのー、すごい寝た。（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』「親しい同性友人同士（男女）の雑談」女性）

また、⑷のように被修飾要素との間に間投助詞を挟むものや、⑸のように倒置された例なども対象とする。

⑷　それ以来、ほんともうメル友、だってなんかすごいさ、損な悲しみ方じゃない？それって。

---

[7] 『談話資料 日常生活のことば』では「メッチャ」とカタカナ表記になっている。

[8] 『談話資料 日常生活のことば』では「チョー」とカタカナ表記になっている。

[9] 『BTSJによる日本語話し言葉コーパス』では「ずいぶん」とひらがな表記になっているものもある。

[10] このほか「すご」「すっご」もあったが、「すごい」の略か「すごく」の略か判断できないため、除外した。

[11] 『BTSJによる日本語話し言葉コーパス』では「すげー」と表記されている。

[12] 例えば「かなり」は、「物事の度合いが、じゅうぶん満足できるほど（または完全な極限状態）までは行っていないが、ある程度の線まで達していること。（中略）本来は「非常な」ほど高い度合いではない（森田 1989：333)」ことを表すが、若い世代ほど平板化し程度の甚だしさを表す使用が増えているように思われる。しかし、発話者がどちらの意味で用いているかを読み取ることは困難である。

（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』「親しい同性友人同士（男女）の雑談」男性）

⑸　ねー、それが面白かった、すごい。（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』「親しい同性友人同士（男女）の雑談」男性）

一方、⑹のような比較構文での使用や、「全然違う」「全然大丈夫」のような程度性のない語との共起は対象外とする。

⑹　一番最初に会った時より目元が全然若くなってるもん。（『談話資料 日常生活のことば』）

また、⑺⑻のような副詞的用法以外のものや、直前の発話（相手や自分の発話）をそのまま言い直すもの、他者の発話の引用なども対象としない。

⑺　や、でも、あれはすごいぞ、他の放送のホームページに比べると。（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』「親しい同性友人同士（男女）の雑談」男性）

⑻　だけどあの、「サークルセクション名３」だってすごい量になってるしな＜軽く笑う＞。（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』「親しい同性友人同士（男女）の雑談」男性）

なお、市原（2011）は、2008年度～2009年度の学生のスピーチの特徴として「「すごい」を多発させてしまうケースが多い」とし、「何かの程度や状態を示すための用い方ではなく、言葉に詰まった際の救世主のような語彙として出現しているケースが多い」と述べている。今回の調査でもこのような使用が散見されたが（⑼⑽）、これらは「すごい」をいわばフィラー的に用いていると考えられるため、本稿では考察対象外とする。

⑼　なんか日本語教育のほうで（はい）、なんか、すごい、文字化し、も、あの（ふーん）、録音資料を文字化するバイトってのを（ふーん）、はい。（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』「初対面同性同士雑談（男女）」）

⑽　何（なん）か、「あ、ないんだ」って＃＃＃＃[13]て、「あ、そうなんだ」って言（い）って、「でも、何（なん）か、ま（＝まあ）、まあ、４年生も全然それぞれみんな違うしー、何（なん）か、何（なん）て言（い）うの、それぞれの状況があるしねみたいな、この人の音に近いものになりたいとか、こう、こういうタイプの音やりたいとか、そういうのもある？」って感じで言（い）ったらー、＃＃＃＃＃て、何（なん）か、すごい、何（なん）か、あたし＃＃＃＃＃、パッて思ってたんだけどー、（後略）（『談話資料 日常生活のことば』女性）

考察対象とする語の使用数は以下の通りである[14]。

程度副詞	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合　計
すごい	214	277	491
すごく	66	49	115
めっちゃ	31	30	61
超	30	15	45
相当	12	12	24
随分	11	3	14
とても	6	1	7
全然	5	0	5
クソ	2	0	2

[13] 聞き取れなかった部分については、推測される拍数が「＃」で示されている（佐竹2016:38）。

[14] 本稿では3.1で述べた基準にもとづき使用数をカウントしているため、孫（2016）の「すごい」「すごく」の調査とは異なる数になっている。

まず、使用数が最も多いのが「すごい」であった。次いで多いのが「すごく」であり、「すごい」と「すごく」で全体の約79％を占めている。櫛橋（2017:95）が「（「すごい」は）明治期においても現代語の意味とはかなりの違いがあ」り、「この100年の間に「寂しい」「恐ろしい」という意味からの変化（中略）を遂げている」と述べるように、程度の甚だしさを表す意味での使用の歴史は浅い。また「すごい」は形容詞であり、形容詞が副詞的に用いられる場合には、本来連用形（「すごく」）となるはずである。中尾（2014:87）が「いつ頃から「すごい」が程度副詞として使用され始めたかについては、話しことばを中心に広まったため、特定するのは困難ではあるが、調査からはおおよそ1970年代であろう」と指摘するように、「すごい」の副詞用法は更に新しい表現であるといえる。にもかかわらず、自然談話においては「すごく」その他の程度副詞をおさえ、「すごい」が圧倒的に多く用いられることは、注目すべきであろう。

次に「めっちゃ」「超」が続く。「めっちゃ」は、元々関西地方を中心に用いられていたものが広い地域で用いられるようになっており、バリエーションも豊富である。「超」については、以下の表の通り平成８年度、平成15年度、平成23年度の３度にわたる文化庁「国語に関する世論調査」があり、使用意識は徐々に上がっている。

〈「とてもきれいだ」ということを「チョーきれいだ」と言うことがあるか。〉

	ある	ない	わからない
平成８年度調査	12.0%	87.4%	0.6%
平成15年度調査	21.4%	78.2%	0.4%
平成23年度調査	26.2%	73.3%	0.4%

（文化庁文化部国語課2012）

次に「相当」「随分」「とても」「全然」「クソ」と続くが、使用数はそれほど多くない。「とても」については、実際の会話の中で使用されたものは、７例に過ぎなかった[15]。今回の調査は日常の話し言葉を対象とするものであるが、国立国語研究所「現代書き言葉均衡コーパス」から2000年～2008年の「国会議事録」を検索したところ、以下の通り「とても（否定対極用法は除く）」の使用数は「すごい（副詞的用法のみ）」を上回っている[16]。その他、「非常に」「極めて」は今回対象とした日常会話の資料には1例も現れなかったが、「国会議事録」ではそれぞれ1039例、164例ヒットした。

「国会議事録」使用数（2000年～2008年）

とても：19
すごい：８
すごく：44
非常に：1039
極めて：146

このように、日常会話と国会審議では明らかな違いが認められ、同じ話し言葉であっても使用場

[15] 『談話資料 日常生活のことば』では「超」「メッチャ」「クソ」など俗語的な副詞の補足説明として「とても」と同義であることが示されている。

[16] ただし「国会議事録」は今回対象とした資料より、発話者の平均的な年代がかなり上であると考えられる。このため60代以上に限って『談話資料 日常生活のことば』を調べたところ、「すごい」の発話数は22例あるのに対し、「とても」はわずか２例であった。つまり高年層に限っても、日常会話においては「すごい」の方が優勢であることがわかる。

面によって現れ方が大きく異なることがわかる。ただし２. で述べたように、若年層においてはスピーチといった公の場でも「すごい」が多用されており（Mori 2011）、若い世代の話し言葉では場面を問わず「すごい」が優勢になっていると考えられる。

3.2 男 女 差

次に、程度副詞ごとに性別による使用率の違いを調べる。

「すごい」「すごく」については孫（2016）による調査があるが、既に述べた本稿の基準をもとに数え直した数値を記載している[17]。また男女比率については、既に述べた男女の総発話文数の比率を考慮した上で値を出している。

「すごい」

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	172	176	348（69.1%）
男　性	42	101	143（30.9%）

「すごく」

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	53	41	94（80.5%）
男　性	13	8	21（19.5%）

めっちゃ

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	22	11	33（52.0%）
男　性	9	19	28（48.0%）

「超」

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	21	9	30（64.8%）
男　性	9	6	15（35.2%）

相　当

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	7	3	10（39.6%）
男　性	5	9	14（60.4%）

[17]「すごい」の女性の発話数のみ、孫（2016）の値を大幅に上回っているが、原因は不明である。

随　分

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	7	1	8（51.2%）
男　性	5	2	7（48.8%）

とても

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女　性	5	0	5（69.7%）
男　性	1	1	2（30.3%）

全　然

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女性	4	0	4（78.6%）
男性	1	0	1（21.4%）

ク　ソ

	『談話資料 日常生活のことば』使用数	『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』使用数	合計（男女比率）
女性	0	0	0（0.0%）
男性	2	0	2（100.0%）

「程度の甚だしさを表す副詞」総使用数

	総使用数（男女比率）
女性	532（67.7%）
男性	233（32.3%）

今回対象とした程度副詞全体について比較してみると、女性の総使用数は全体の７割近くとなっている。「相当」「クソ」のみ男性の使用数が女性の使用数を上回った。

既に述べたように、「すごい」「すごく」については女性の方が多く使用していることが、『談話資料 日常生活のことば』の資料から明らかとなっているが（孫2016）、異なる資料（『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』）においても、やはり女性の使用率が高いという結果が得られた。特に「すごい」については、「すげえ」「すっげえ」「すんげえ」「すーげえ」のような男性の使用に大きく偏るバリエーションが存在するにも関わらず、これらを含めても圧倒的に女性の方が使用率が高い点は興味深い。一方で、「すごい」の男性の使用数は女性に比べて少ないものの、程度の甚だしさを表す副詞の中で、男性が最も多く使用する表現もまた、圧倒的に「すごい」であることが分かる。

以上の結果から、語によって違いは存在するものの、現代日本語の日常会話おいては、女性の方が程度の甚だしさを表す副詞を多用する、ということが言えるだろう。

4．考　察

これまでの女性語の研究では、一般に女性語の特徴として「断定を避け、命令的でなく、自分の考えを相手に押しつけない[18]」といったことが挙げられている。また佐竹（2012:44）によると「女は男と違って丁寧でやさしく上品なことばづかいをすべきだ」という「ジェンダー規範」が存在するとされている。しかし、今回調査した「程度の甚だしさを表す副詞」の使用は、「丁寧でやさしく上品なことばづかい」に相当するとは考えにくい。では、なぜ女性は程度の甚だしさを表す副詞を多用するのだろうか。

Tannen（1990）は、男女のコミュニケーションスタイルについて、男性は情報伝達・報告を重視する「リポート・トーク（report talk）」を好む傾向があり、女性は話し手と聞き手との間の情緒的なつながり・共感を重視する「ラポール・トーク（rapport talk）」を好む傾向があることを、様々な例をもとに述べている。つまり、男性は会話を情報の交換と考えるのに対し、女性は会話を感情の共有と考えるため、女性は男性に比べて会話の相手に感情の理解を求める傾向が強いと考えられる。

一方、程度の甚だしさを表す副詞については、小矢野（1994b）に以下のような記述がある。

> 感動の表出と程度の表現とは未分析的には内包されていても、分析的には共存しにくいものである。発話時と同時の感覚を直接的に表出する「あ、いッ。」「痛ッ。」「痛いッ。」「痛ーい。」「痛いよー。」などの文（中略）は、文としては成立する。しかし、＊「あ、めっちゃいッ。」、＊「めっちゃ痛ッ。」、？「めっちゃ痛ーい。」のように、表出文に程度副詞を共起させると、文として成立しないか成立しにくい。
>
> （小矢野1994b：13）

このように、発話時の感情や感動をそのまま表出する場合、いくら強く感じたとしても程度副詞による修飾はされにくい[19]。更に、小矢野（1994a）は、以下のように述べている。

> 話し手は自分の伝達したい内容を、聞き手に是非とも聞いてもらいたいという欲求を持って表現する。状態や性質を描写するときに、自分がどんなに強烈にそれをとらえているのかということを聞き手に伝達し、聞き手にも共感してもらうために必然的に採用されるのが程度の大きい様子を表す副詞（句）である。
>
> （小矢野1994a：50）

つまり、程度が甚だしいことを表す副詞は、相手に対する伝達を目的とした文において用いられ、特に強い伝達の意図があり共感を求める場合に使用されるといえる[20]。

以上の Tannen（1990）、小矢野（1994a）（1994b）の研究から、女性の方が程度の甚だしさを表す副詞を多用する理由について、以下のような説明が可能となるだろう。

---

[18] 益岡・田窪（1992：222）。

[19] 実際、程度副詞の使用状況を『名大会話コーパス』（検索のしやすさの点から、ここではこの資料を用いた）を用いて調べたところ、感動詞「わあ」「わー」「わっ」の後に形容詞が用いられる例21例のうち、程度修飾されたものはなかった。また、「痛っ。」「こわ。」「すご。」「おいしー。」のような形容詞語幹型の文20例中、程度副詞が付加された例は１例のみであった。

[20] データがないため実際に確認はできなかったが、独り言では程度の甚だしさを表す副詞は用いられにくいと思われる。

⑾ 女性は男性に比べて会話の相手に感情の共有を求めるため、より強い伝達の欲求を持っている。しかしながら、相手が実際に経験していない事柄はなかなか共感されにくい。したがって相手の共感を得るために、程度の甚だしさを表す副詞を用いて誇張して伝える。

程度の甚だしさを表す副詞の使用は、「共感」を求める女性に特徴的な表現ストラテジーであるといえる。

5．まとめと今後の課題

本稿では、日常会話における「程度の甚だしさを表す副詞」の使用実態と、男女の差異について考察した。その結果、圧倒的に使用数が多いのが「すごい」、次いで「すごく」であることが分かった。また、全体として女性の方が程度の甚だしさを表す副詞を多用することが明らかとなった。このような性別による違いは、話し手と聞き手との間の情緒的なつながり・共感を重視する女性の心理、および程度の甚だしさを表す副詞の「強い伝達の意図があり共感を求める場合に使用される」といった運用面での特徴により説明できる。

程度の甚だしさを表す副詞は移り変わりが激しいが、通常、新しい表現は「若者言葉」「俗語」などと認識され、改まった場面・改まった文章では使用されにくい。「すごい」なども、程度の甚だしさを表す副詞としては比較的新しい表現ではあるが、若い世代には改まった場面でも用いられるようになってきている。一方、「めっちゃ」「超」などは、『BTSJ による日本語話し言葉コーパス』のうち「初対面同性同士雑談（男女）」にも全く現れない。これらの語の使用は「規範的でない（方言的、俗語的である）」という意識を伴い、若い同年代同士の会話であっても親しい間柄でなければ用いられにくいものと思われる。

今回の考察では話し手の属性のうち性別についてのみ取り上げたが、程度副詞の使用には、年代による違い、また発話の場、相手との関係、書き言葉か話し言葉かといった手段等による違いも存在する。今後そのような観点からの研究も重要であると考える。

参考文献

市原乃奈（2011）「「Win-Win の関係」を築こう !! 明瞭・的確・端的に伝えるために～フライト・オペレーションコース「口語表現１」授業の現場から～」『明治大学日本文学』37, pp. 48-28, 明治大学日本文学研究会.

市村太郎（2015）「雑誌『太陽』『明六雑誌』における程度副詞類の使用状況と文体的傾向」『日本語の研究』11-2, pp. 33-49, 日本語学会.

宇佐美まゆみ（2005）「ジェンダーとポライトネス――女性は男性よりポライトなのか？――」『日本語とジェンダー』5, pp. 1-12, 日本語ジェンダー学会.

櫛橋比早子（2017）「形容詞「すごい」の程度副詞化――新聞を対象として――」『日本近代語研究 6』pp. 93-109, ひつじ書房.

工藤浩（1983）「程度副詞をめぐって」『副用語の研究』pp. 176-198, 明治書院.

小林美恵子（2016）「調査の概要」『談話資料 日常生活のことば』pp. 1-27, ひつじ書房.

小矢野哲夫（1994a）「特集；若い女性のことば――女子大学生のキャンパスことば」『日本語学』13-11, pp. 45-53, 明治書院.

小矢野哲夫（1994b）「大学生が使用している程度表現」『日本語・日本文化研究』4, pp. 1-13, 大阪外国語大学日本語講座.

佐竹久仁子（2012）「〈女性語〉の形成と衰退」『日本語学』31-7, pp. 44-55. 明治書院.
佐竹久仁子（2016）「文字化の原則」『談話資料 日常生活のことば』pp. 29-40, ひつじ書房.
孫琦（2016）「日常会話における形容詞「すごい」の程度強調用法」『談話資料 日常生活のことば』pp. 91-106, ひつじ書房.
中尾比早子（2014）「程度副詞「すごい」の使用実態」『Nagoya linguistics』8, pp. 85-98, 名古屋大学言語研究会.
野田春美（2000）「「ぜんぜん」と肯定形の共起」『計量国語学』22（5）, pp. 169-182, 計量国語学会.
藤村逸子・大曽美恵子・大島ディヴィッド義和（2011）「会話コーパスの構築によるコミュニケーション研究」藤村逸子・滝沢直宏編『言語研究の技法：データの収集と分析』pp. 43-72, ひつじ書房.
堀尾佳以（2008）「『程度の副詞』・『程度を表す語彙』について――新しい語彙・若者言葉を中心に――『東アジア日本語教育・日本文化研究』11, pp. 133-151, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会.
メイナード・K・泉子（1993）「アメリカ英語」『日本語学５月臨時増刊号』12-6, pp. 13-19, 明治書院.
益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法―改訂版―』くろしお出版.
森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店.
Jespersen, Otto（1922）Language : its nature, development and origin, London : G. Allen & Unwin.
Lakoff, Robin（1975）Language and Woman's Place, New York: Harper and Row.
Sachiho Mori（2011）"The Language of Young People and its Implications for Teaching", OTB Forum, 4（1）, pp. 46-49.
Tannen, Deborah（1990）You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation. New York: William Morrow（邦訳『わかりあえない理由――男と女が傷つけあわないための口のきき方10章』田丸美寿々訳，1992年，講談社）.

資　料

宇佐美まゆみ監修『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2011年版』，国立国語研究所，機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」，サブ・プロジェクト「日本語学習者の日本語使用の解明」（リーダー：宇佐美まゆみ）.
現代日本語研究会、遠藤織枝、小林美恵子、佐竹久仁子、高橋美奈子編（2016）『談話資料 日常生活のことば』談話資料データ.
国立国語研究所『現代書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）.
文化庁文化部国語課（2012）『平成23年度　国語に関する世論調査 日本人の言語生活』ぎょうせい.
『名大会話コーパス』科学研究費基盤研究（B）（2）「日本語学習辞書編纂に向けた電子化コーパス利用によるコロケーション研究」（平成13年度～15年度　研究代表者　大曽美恵子）の一環として作成.